

ア
児童の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

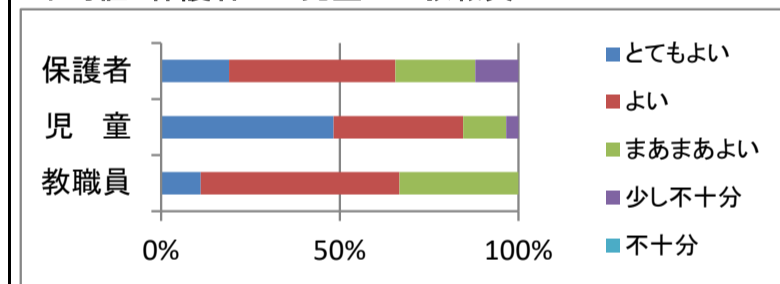
I 自主的・自律的な生活

評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期 良好	良好	子どもたちにインタビューしたら、「学校は楽しい。」と、言っていた。「不登校傾向の子どももいない。」とも言っていた。児童減に応じて、活動の見直しも前向きに行っている。
後期			
学自 校己 の評 改価 善の 策概 要と	<p>【前期(→後期)】今年度は「ハロー&スマイルプロジェクト」と題して、挨拶を重点に取り組んだ。本校の傾向として、期間中はやる気をもって頑張る児童が多いが、それ以降はやや下火になるという傾向が見られる。「いつでも・どこでも・誰にでも」挨拶ができる東小っ子を目指していきたい。委員会や係活動では、児童による自主的・自発的な活動という点が話題になった。本校は自分の仕事に責任をもって臨むことのできる児童が多いが、自主性や自発性という点がやや弱い傾向にある。時間はかかるが、各委員会で児童による話し合いや活動となるよう根気よく指導していくことを確認した。</p> <p>【後期(→次年度)】</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉遣いの指導	4	
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	4	
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	3	
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	

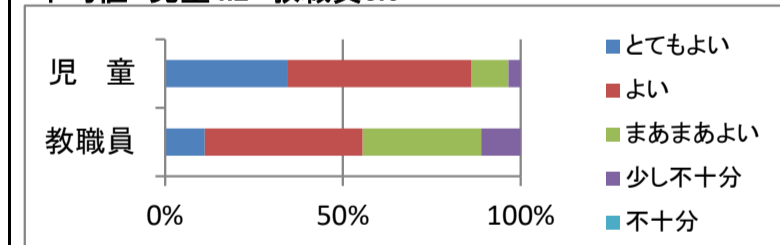
[評価指標1]

(1)元気なあいさつと正しい言葉遣い
 平均値 保護者3.7 児童4.3 教職員3.8



4月に、駐在所の方や秋北バスに協力していただき、「交通安全教室」「バスの乗り方教室」を行った。道路歩行・自転車運転・バス乗車や待ち方について、安全意識を高めることができた。学区には道幅の狭い道路や交通量の多い交差点もあるため、交通安全については今後も繰り返し注意喚起をしていきたい。

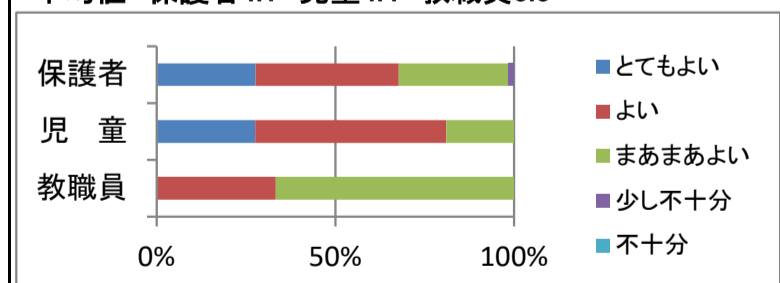
(2)規律ある落ち着いた生活
 平均値 児童4.2 教職員3.6



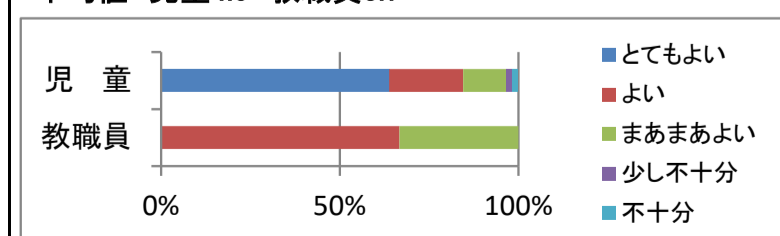
5月は、元気な挨拶が響く東館小を目指して「ハロー&スマイルプロジェクト」を行った。今年は、活動の一環として「挨拶玉入れ合戦」を取り入れたところ、たくさんの児童が楽しみながら元気な挨拶を心がけることができた。

[評価指標2]

(3)自分の考えを生かした活動
 平均値 保護者4.1 児童4.4 教職員3.3



(4)集団の一員としての活動
 平均値 児童4.5 教職員3.7



今年度は4つの委員会を組織し、全校児童がより楽しく気持ちのよい学校生活を送れるよう活動をしている。4月には4～6年児童で「前期児童総会」を行い、各委員会のめあてや活動計画を発表し、今年度の児童会テーマを決定した。それぞれ学校の一員として自分にできることを考えたり実践したりしようとする気持ちを高めることができた。

ア 児童の状況

II 思いやりの心 たくましい心

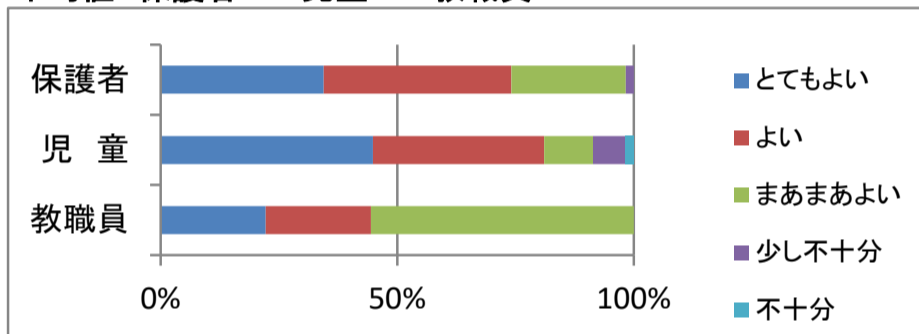
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	2・3年複式学級の様子を見ると、どちらの学年も落ち着いて学習していて感心した。子どもたちに尋ねたところ、いじめもないようだ。これからも、人のために役に立っているという気持ちを高めていってほしい。
	後期			
善要自 策と己 学評 校価 のの 改概	【前期(→後期)】 感染症予防のため、児童間の交流がなかなか実施しにくい状況だが、各指導部や委員会でお互いの頑張りやよいところが見えるように工夫して取り組んでくれている。今後も校内環境の充実や掲示物の工夫・校内放送の活用等で、児童の心に一層働きかけられるようにしていきたい。また、めあてカードや各指導部からのカードも効果的に活用して、自己有用感をもてるよう取り組んでいく。			
	【後期(→次年度)】			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5) 相手を思いやり助け合う心	特別の教科道德の充実 異学年交流	4	
	(6) 自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	4	
4 集団生活・集団行動	(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	

[評価指標3]

(5) 相手を思いやり助け合う心

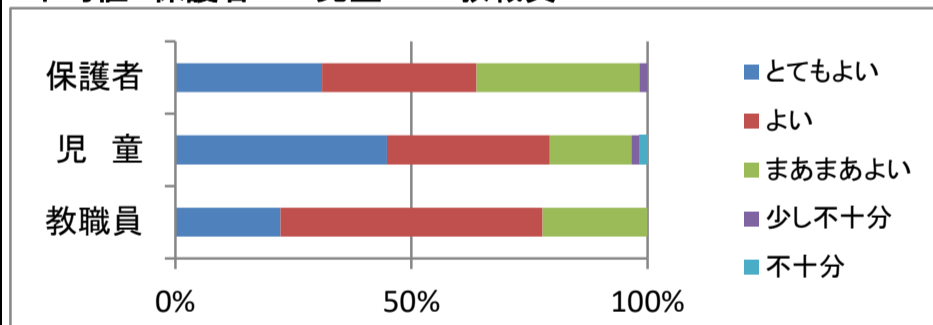
平均値 保護者4.1 児童4.2 教職員3.7



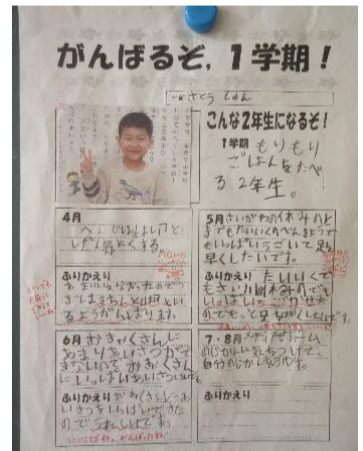
9月の児童会行事「東小っ子フェスティバル」に向けて、各学級で出店の準備を進めた。あいにく感染症拡大防止の観点から延期となってしまったが、毎年児童が楽しみにしているイベントであり、児童間の協力や団結心を高めたり異学年交流を深めたりするのに有効な活動であるので、いずれ時期をみてぜひ実施したい。

(6) 自分を高めようとする意欲

平均値 保護者4.2 児童4.2 教職員4.0



挨拶運動のリボンでの奨励



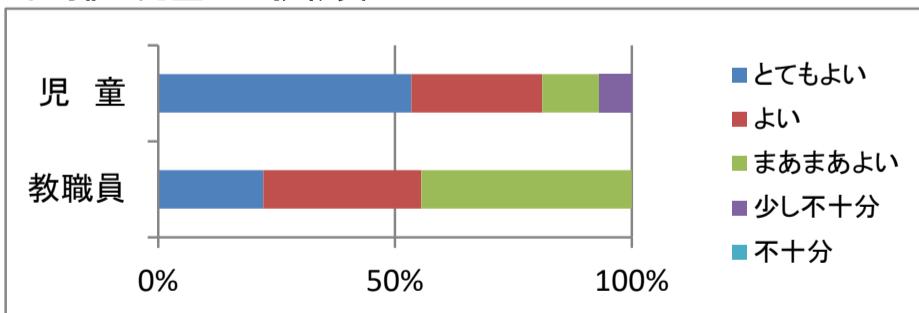
3Hめあてカードでのふりかえり

児童が自分の成長の跡を確認することができるように、「3Hめあてカード」を活用している。今年度は、カードに自分の言葉で振り返りを記入できる様式に変更したが、毎月の自分の頑張りを振り返るのに役立っているようだ。各委員会も、それぞれの活動内容に合わせて個々の頑張りを認める工夫をしている。お互いのよさを認め合える環境作りに今後も力を入れていきたい。

[評価指標4]

(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級

平均値 児童4.3 教職員3.8



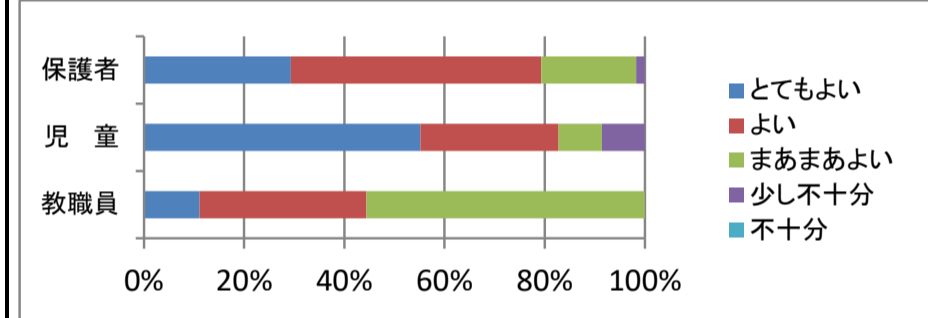
ア 児童の状況

Ⅲ 健康と体力

評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	保護者から、子どもが怪我をして湿布を貼って帰ってきたとき、もっと早く連絡してほしいという声があったが、コロナに関する対応や情報提供など肯定的な声が多かった。メディアとの関わり方については、保育園とも連携しながら進めてよい。
	後期		
学自 校己 の評 改価 善の 策の 概要 と	<p>【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、新型コロナウイルスの流行により1学期中に手洗い指導や歯みがき指導といった保健指導全般を行うことができなかったことにより数値が下がったと考えられる。メディアと有意義な時間の使い方は今後も継続して意識づけできるようにしていく。望ましい食習慣の形成については、2学期以降計画的に栄養教諭と連携して食育活動を進めていく。体力と運動能力の向上は、コロナ禍でもできる活動を委員会と連携して進めていき、衛生面についてもマスクやソーシャルディスタンスについての呼びかけを行い、感染症対策についての意識も高める。体力の向上のため、可能な範囲で全校での運動遊びなどを提案していく。</p> <p>【後期(→次年度)】</p>		

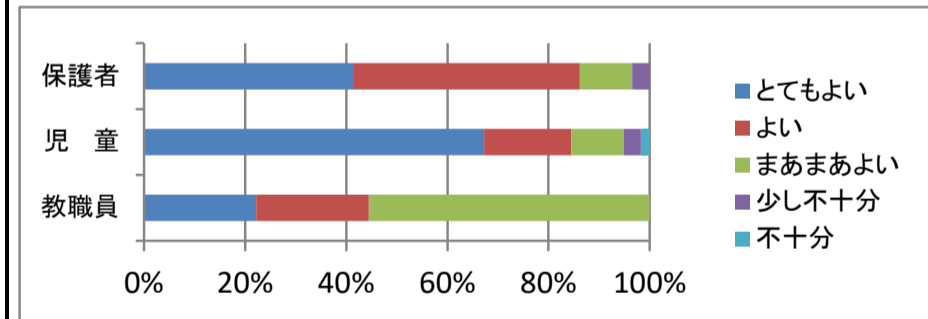
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通じた食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体力テストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	

[評価指標5]
(8)健康な生活習慣の定着
 平均値 保護者4.1 児童4.3 教職員3.6



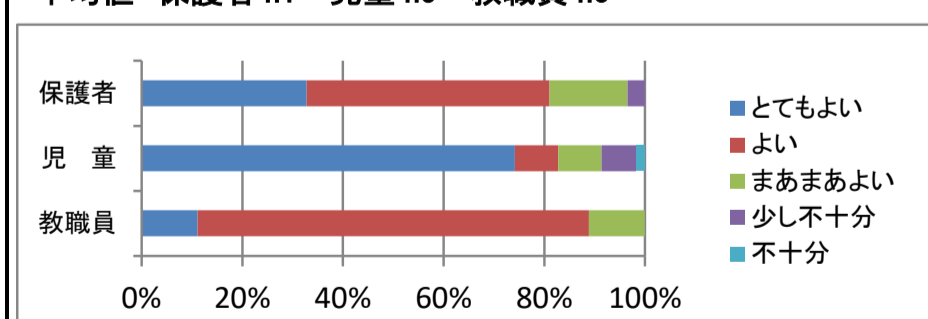
全校朝会(4月)
 4月に行った全校朝会では運動会に向けての目標設定について確認した。明確な目標をもつことで、運動会に向けての練習を意欲的に進めることができた。

(9)望ましい食習慣の形成
 平均値 保護者4.2 児童4.4 教職員3.7



食に関する授業(5月)
 5月に4年生を対象に食に関する授業を実施した。野菜を緑黄色野菜と淡色野菜とに分類をし、それぞれの働きについて気付かせることができた。また、バランスよく食べようとすることや残さず食べようとする意欲を喚起した。

[評価指標6]
(10)体力と運動能力の向上
 平均値 保護者4.1 児童4.5 教職員4.0



さくらんぼタイム(7月)
 夏休み前の7月には、メディアとの上手な付き合い方について考え、時間の有意義な使い方について話し合った。子どもたちからは、勉強、お手伝い、読書、運動など様々な意見が出された。



新体力テスト(7月)
 縦割り班や学年ごとの練習を経て、全校新体力テストを実施した。本校の記録と県・全国平均と比較し、今後の体力向上に生かしていく。

ア 児童の状況

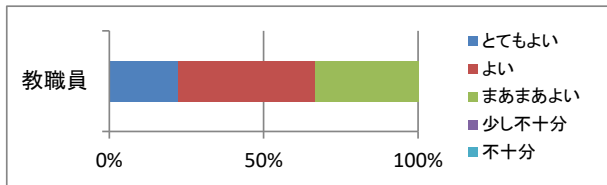
V 組織運営

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期 おおむね 良好	良好	とんぶりに関する活動など、特色ある教育活動が行われている。子どもたちは楽しみながら取り組んでいる。マスコミからの取材も多く、地域にも元気を与えている。
校自己改善策の概要と学	【前期(→後期)】指標10の教育課程の編成と実施に関しては、各学年の計画に基づいてキャリア教育が進められ、様々な体験が子どもたちの学びにつながっていると考えられる。その他の2つの指標については、後期に向け課題を明確にして改善策を講じなければならない。目指す子どもの姿に照らし合わせ、今現在の子どもの実態を把握し、付けるべき力をしっかりと確認し、子どもたち自身が自分を高めようと思う取組を進めていくことが重要である。また、授業改善と指導力の向上については、研究授業や研修会に「自分であればどう指導するか」という視点で臨み、参考にすべき点を積極的に日々の実践に取り入れるなど、各々が授業改善に努める必要がある。		
	【後期(→次年度)】		

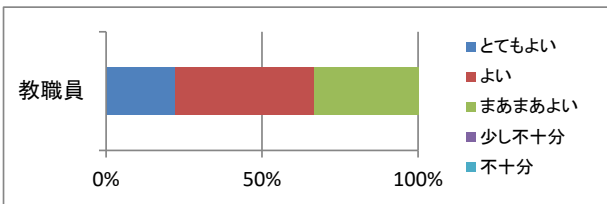
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	3	
	(16) 各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	3	
10 教育課程の編成と実施	(17) 特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	4	
11 職員研修	(18) 授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	3	

【評価指標9】

(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解
 平均値 教職員3.9

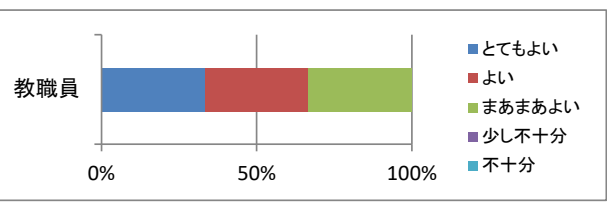


(16) 各指導部の運営と実践
 平均値 教職員3.9



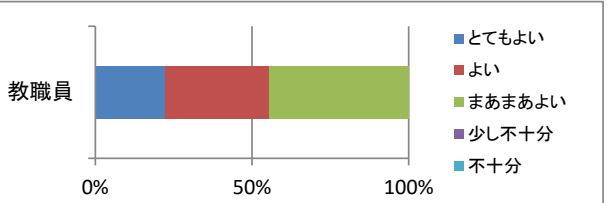
【評価指標10】

(17) 特色ある教育課程
 平均値 教職員4.0



【評価指標11】

(18) 授業改善と指導力の向上
 平均値 教職員3.8



☆「東館3つのH」の施策の提案・実践

4・8月 学習習慣を身に付けよう(学習指導部)

※毎日の会でもふりかえり、○だった児童の数を記入する。

月	日	月	火	水	木	金	合計
学習	1	心をこめて、じゆぎょうのあいさつ					
習	2	手やいせきニ手やいせき管理					
の	3	目と耳と心で、お話を聞く					
ア	4	発表は大きな声で、さいごまで					
カ	5	文字はせまじをのぼして、いぬいご書く					
キ	6	へんじ「はいっ」と、元馬よく					
ク	7	じゆんびをしてから、休み時間					
コ	8	あいさつは、明るい声で自分から					
ク	9	ろうかほ右側を歩く					
コ	10	ていねいな言葉をつかう					
合計		一めだせ 満点					

・年度初めと夏季休業明けに学習の7か条、あいさつ、言葉遣い等をカードでチェックし、学級全体で十分にできていない項目について重点的に指導することができた。

5月 健康力アップパート1(保体指導部)

～目標を決めて、計画的に体力アップを目指そう～

・運動会前に徒競走、持久走の目標を設定して、目標達成で健康通帳へ貯金できるようにし、意欲的に取り組めるようにがんばりカードを活用し、主体的に取り組む姿が見られた。
 ・「うまくきたえて」を活用し、感染症に負けない体づくりを呼びかけた。

6月 実行力アップパート1(生徒指導部)

～元気なあいさつで 1up!～



・「自分からあいさつ」ポイントカードを活用し、誰にでも自分から進んであいさつができるよう意識付けることができた。
 ・全校であいさつの向上を目指し、きちんとあいさつができた日は玉入れの掲示にシールを貼る「あいさつ玉入れ合戦」を行った。この取り組み後も、自主的なあいさつができるよう、指導を継続した。

☆各学年のふるさとキャリア教育☆

- 1年: 学校をたんけんしよう
- 2年: まちたんけん
- 3・4年: とんぶり広め隊
種まき・苗植え・草取り・収穫
レシピ開発・とんぶり販売等
- 5年: われら東館ふるさと探検隊
椎茸植菌・収穫、ふるさと探検
金山太鼓を伝えよう
- 6年: われら東館ふるさと発信隊



3・4年 とんぶり料理(桂枝高校)

- 椎茸植菌・収穫、地域の歴史・伝統行事を伝えよう
お仕事調査隊

ア 児童の状況

VI 保護者・地域との連携

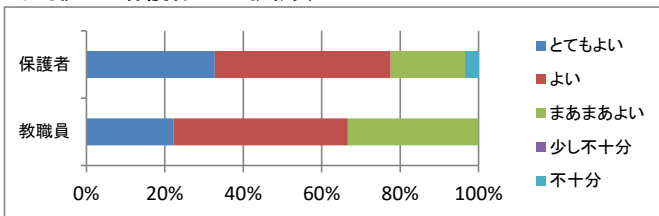
評価項目	自己評価A		学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
	前期	後期		
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	おおむね良好	きわめて良好		昨年度実施した児童減に伴うPTAの組織再編は、新組織への移行がスムーズに進んでいる。地域と協働しながら進んでいる。今後も地域との良好な関係を続けてほしい。
学自 校己 の評 改価 善の 策概 要と	<p>【前期(→後期)】全体としての傾向は前年度と同様であるが、(20)が-0.3と少し低下している。これは、昨年度実施した学校規模に合わせたPTA組織再編に伴い、PTA活動が再編され夜の会議等が少なくなったことが影響しているかもしれない。また、全体の数字には表れていないが(19)保護者評価が著しく低い方が数名いた。これは、学校のホームページ更新を7月に実施したことが影響しているかもしれない。ホームページは、1・2学期は中間と学期末に更新するようにしたい。(21)は教職員の減少により、今まで通りできなくなってきた部分もあるが、いろいろ工夫しながら取り組んでいきたい。</p> <p>【後期(一次年度)】</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19)学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	
	(20)保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校評議員会等の開催	3	
13 地域の教育力の活用	(21)地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	

【評価指標12】

(19)学校の様子が伝わる情報発信

平均値 保護者4.0 教職員3.9

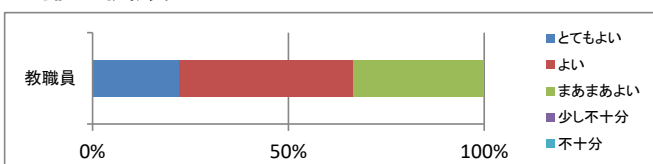


【学校の様子が伝わる情報発信等】

- ①隔週発行の各学級の「学級だより」
- ②毎月末発行の学校報「犀川」の学区全戸配布
- ③ホームページによる学校経営方針等の明示
- ④ブログによる日々の学習活動の紹介
- ⑤新聞記事への掲載 ※掲載は9月まで7回
(桂桜高校生ととんぶり料理、ふるさとクラブ、クマ対応防災教室等)
- ⑥テレビ放映 (とんぶり種蒔き、苗植え、)
- ⑦一斉メール配信
(テレビ放映のお知らせ、災害・熊への注意等)

(20)保護者・地域からの情報収集

平均値 教職員3.9



【保護者・地域からの情報収集】

- ①PTA総会・1学期末PTAにおける学級懇談の実施
- ②7月のスポーツ交流会での情報交換
- ③夏季休業中の保護者との個人面談
(7/25~7/29)
- ④各学年親子レクでの情報交換
6/25 1年部 6/18 2・3年部合同
7/9 4年部 9/10 5年部 検討中 6年部

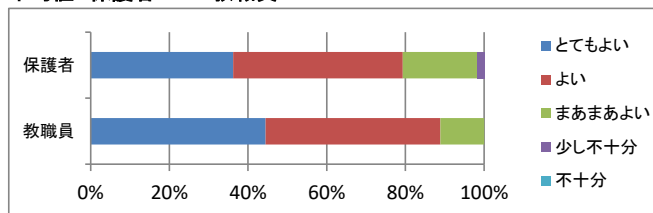
【地域素材の活用】

- 総合的な学習の時間
3・4年「とんぶり広め隊」…とんぶりの栽培・観察
とんぶりレシピの開発、桂桜高校生ととんぶり料理
- 5年「われら東館ふるさと探検隊」…大葛金山太鼓の伝承
自然の家での比内地域合同ふれあい体験教室
- 5・6年「椎茸植菌・収穫」
- 体育(運動会)…全校独鈺ばやし披露
- クラブ…独鈺ばやし太鼓練習

【評価指標13】

(21)地域素材や人材の効果的な活用

平均値 保護者4.1 教職員4.3



【人材の効果的な活用】

- ①正課クラブ～「将棋クラブ」山田勝巳さん、
「スポーツクラブ」中田一志さん・真佐子さん、多賀谷隆文さん
「ふるさとクラブ」神成幸忠さん
- ②椎茸植菌・収穫～角森誠市さん、山本隆仁さん
- ③とんぶり栽培～本間均さん
- ④金山太鼓～加賀谷廣美さん
- ⑤交通教室・バスの乗り方教室～独鈺駐在所長、
大館警察署の方々、秋北バスの方々
- ⑥防災教室(クマ対応)～秋田県生活環境部自然保護課、近藤麻実さん、石塚雄大さん
- ⑦読み聞かせ～読み聞かせカルテットのみなさん
- ⑧食育指導～比内給食センター栄養教諭



桂桜高校生ととんぶり料理づくり 7/8

児童がとんぶり料理レシピを開発するために、地域の祖母にお願いしていたとんぶり料理作りを桂桜高校にお願いしたところ、快諾して下さった。お兄さんかお姉さんが教えてくれることで、楽しく一緒に料理することができた。

クマ対応防災教室 7/13
県自然保護課近藤麻実さんを講師に招き、全校でクマの生態と出会ったときの対応について学んだ。クマ専門家の講話は、児童の心に深く残り、確かな知識を得ることができた。

